



今日のトピック 豪州準備銀行は金融政策を据え置き

雇用堅調でインフレ上振れなら豪ドルは上昇も

ポイント1

金融政策は据え置き 中銀は労働市場の回復を評価

- 豪州準備銀行（RBA）は5月4日の金融政策決定会合で、翌日物金利と3年物国債利回りの目標を0.1%に維持し、国債購入プログラムも据え置きました。
- 声明文では、「豪州経済は予想よりも強く、回復は今後も続く」としており、労働市場を中心とした回復を評価しています。また、同時に発表した経済予測では、2021年の成長率を前回の3.5%から4.75%へ大きめに引き上げました。

ポイント2

インフレ率の加速は緩やか 2024年まで金利据え置き継続へ

- 一方、インフレについては「インフレ率と賃金の加速は予想されるものの緩やか」としており、2021年の基調的インフレ率の予想については1.5%と、前回の予想である1.25%からの修正は小幅でした。
- こうしたことから、「実際のインフレ率が2～3%の目標範囲内に持続的に収まるまで翌日物金利を引き上げない」、「2024年までにこれらの条件が満たされるとは予想していない」と政策金利据え置きを続ける方針を改めて示しています。

今後の展開

インフレ上振れなら豪ドルは上昇も

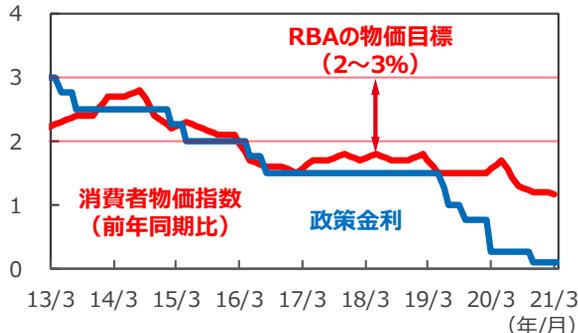
- ただ、声明文にもあるように、「3月の失業率は5.6%に低下し、就業者数はパンデミック前の水準を上回っている」状況です。雇用の回復はほぼ達成しつつある中で、緩やかながらもインフレ率がRBAの想定以上に高まることになれば、金融緩和の縮小観測につながる可能性もあります。
- 豪ドルはこのところ対ドルで一進一退の展開が続いています。しかし、金融緩和の縮小観測が生じれば豪ドルが他通貨に対して上昇する局面も想定されます。

ここも チェック!

2021年4月15日 「マルチスピード」型の回復と金融市場（吉川レポート）
2021年4月14日 アジア・オセアニアのリート市場は概ね堅調

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2021年1-3月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。
政策金利は2013年3月31日～2021年5月4日。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2018年1月1日～2021年5月4日。
豪日金利差は3年国債利回りの差。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成